しあわせおっぱい通信

岐阜県総合医療センター　8 階東病棟　Vol.62　2026 年秋号

母乳育児とお母さんの病気の話

母乳は赤ちゃんへのメリットがたくさんあります。一方で、母乳をあげているお母さんの女性疾患のリスクを下げる効果があることも明らかになっています。母乳をあげている間は女性ホルモンの分泌が抑えられ、低い状態が続きます。そのため、排卵が抑制されることで女性疾患のリスクを下げてくれるのです。

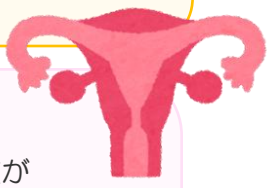
乳がん



乳がんは女性のがんで最も多いがんです。母乳育児の経験や母乳を与える期間が長いほど**乳がんの発症リスクが低く**なります。

卵巣がん

卵巣がんは早期発見が難しく、予後不良ながんの 1 つです。排卵回数が少ないほど卵巣への刺激も少なくなるため、**授乳期間が長いほどリスクが低下する**と言われています。



子宮内膜症

子宮内膜症は 20～30 代での発症が多く、痛みや不妊の原因になる疾患です。母乳栄養期間が３ヵ月増えるごとに子宮内膜症のリスクが８%、完全母乳では 14%低下します。また生涯に母乳栄養を合計 36 ヵ月以上行った女性は、全く行わなかった女性に比べ、**子宮内膜症リスクが 40%低い**ことも明らかになっています。



子宮体がん

子宮体がんは 50 歳代からの発症が多く、不正出血をきっかけに発見されることが多いです。母乳育児の女性は、そうではない女性に比べ、**子宮体がんの発症リスクが約 11%低い**ことが明らかになっています。



母乳栄養でお母さんの女性疾患のリスクは下がりますが、一番大切なのは早期発見・早期治療です。普段はない症状が出たり、自分の身体に違和感があったりしたら一度お近くのクリニックを受診してください。症状がなくてもがん検診は定期的に受けましょう！



また、様々な疾患に罹患され治療中でも母乳育児の可否は
医師・薬剤師・助産師と共に薬の変更等も含め、検討していきます。
もし、母乳育児が出来ない場合でもスキンシップを大切に、
赤ちゃんに心の母乳をあげていきましょう。